

# 近畿地方で採集されたシコクカクムネコメツキダマシについて

鈴木 互<sup>1)</sup>・有本久之<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 211-0031 神奈川県川崎市木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科 (wsuzuki@hosei2.ed.jp)

<sup>2)</sup> 〒 558-0052 大阪府大阪市住吉区帝塚山西 3-4-21

## Notes on *Melasis shikokensis* Hisamatsu (Coleoptera: Eucnemidae) from the Kinki District, Japan

Wataru SUZUKI & Hisayuki ARIMOTO

**Summary.** *Melasis shikokensis* Hisamatsu was described based on unrecorded number of specimens collected from Mt. Ishizuchi-yama and Mt. Tsurugi-san, Shikoku, Japan. Up to now, this species has been known from Honshu, Shikoku and Kyushu. Recently the junior author had found out this species from the emergence holes of the dead trunk and from branches of *Sorbus commixta* Hedl. (Rosaceae) in the Kinki district of Japan. In this short paper, *Melasis shikokensis* Hisamatsu, is redescribed based on five specimens collected from there.

シコクカクムネコメツキダマシ *Melasis shikokensis* Hisamatsu, 1985 (以下、シコクカクムネ) は、四国の石鎚山と剣山で採集された複数個体に基いて命名された種である。その後、栃木県日光市(鈴木, 1987; 高橋, 1987, 1988, 1992), 福井県大野市荒島岳(齋藤, 1983; 佐々治ほか, 1998), 神奈川県箱根神山(平野, 1972, 1998), 奈良県吉野郡大台ヶ原(斎藤, 1988), 神奈川県山北町三国山(平野, 1992, 1999), 山梨県鳳凰山御座石鉱泉(水野, 1991), 静岡県静岡市安倍峠(平野, 1997), 富山県東砺波郡上平村タカンボウ山(野村, 1999), 熊本県 Kashiwagawa (鈴木・渡辺, 2008) で発見されたことで、本州、四国、九州に広く分布する種であることが明らかになった。食樹については、観察例が少ないこともあり、ほとんど確認されておらず、原記載において「立ち枯れのシコクシラベに穿孔する」という記述があるのが唯一の資料となっている。

筆者の1人、有本は、奈良県弥山において、コメツキ類の調査をした際、ナナカマド *Sorbus commixta* Hedl. (Rosaceae) の立ち枯れでシコクカクムネが発生しているのを観察し、採集しているので、ここに記録しておきたい。

本種は保育社の甲虫図鑑の中で簡単な形態的特徴だけで命名されたため、種を識別するには記載が十分ではなかった。高橋(1992)は、本種を日光市から再記録するにあたり、雄の触角の形状を岩手県北上市産のカクムネコメツキダマシ *Melasis japonica* Hisamatsu, 1963 (以下、カクムネ) とともに図示し、平野(1997)は、高橋(1992)の触角図を引用紹介した上で、シコクカクムネとカク

ムネの検索表を作成している。ただ、高橋(1992)や平野(1997)で記録されたカクムネについては、触角の形状や記載された特徴から真のカクムネではないと思われる。

本論文では、今回得ることのできたシコクカクムネの個体を基に、雌雄の形態的特徴を図示し再記載するとともに、近縁種のカクムネとの識別点を明記することで、本種の同定の手引きとしたい。なお、上記の高橋(1992)や平野(1997)で記録された種については、別に発表を予定している。

本稿を草するにあたり、調査に関してご協力いただいた近畿地方環境事務所の徳丸久衛氏と吉野自然保護管事務所の七日木修一氏、シコクカクムネのタイプ標本とその所在についてご教示いただいた愛媛大学ミュージアムの吉富博之博士に心より感謝申し上げる。

弥山での調査は、有本が2007～2012年の間、近畿地方環境事務所を通して吉野熊野国立公園特別保護地区におけるコメツキムシ類の捕獲許可を得ておこなわれた。また、本研究の一部は、鈴木の法政大学付属中・高等学校国内研究員制度の支援を受けておこなわれた。

### シコクカクムネコメツキダマシ *Melasis shikokensis* Hisamatsu, 1985

(Figs. 1–8, 10–12)

*Melasis shikokensis* Hisamatsu, 1985: 43, pl. 8, fig. 9 (Shikoku: Mt. Ishizuchi-yama, Mt. Tsurugi-san) (Holotype in Ehime University).

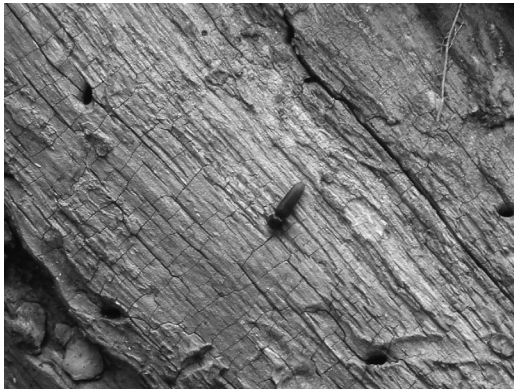


Fig. 1. An adult female of *Melasis shikokensis* Hisamatsu on the dead trunk of host tree *Sorbus commixta* Hedl. (Rosaceae). 28–29. VII. 2012, Mt. Misen, Nara, Kinki district, Japan. Photo by H. Arimoto.

### 形態

地肌は黒色で、褐色の毛で被われる。

♂. 体長 8.0–8.5 mm. 体は筒状で長く、上翅基部の約 4.1 倍。頭循前縁は中央でわずかに切れ込む。頭循は全体が凹む。頭部は密にやや粗雑に点刻される。触角第 1 節は傾いた毛で被われる。第 4 節の分枝の長さは第 5 節の 0.64–0.66 倍で、第 6 節の分枝は 5 節のそれより明らかに長い (Fig. 4)。前胸背板には正中線に沿って大変狭い平滑線を備える (Fig. 2)。中央部はやや大型の疎らな点刻で被われるが、点刻間の距離は点刻直径より狭くなる部分が存在する (Fig. 8)。前胸後角は後方に突出するが、短く、先端は鈍く尖る (Fig. 6)。小楯板は舌状であるが、先端中央部はわずかに陥入する。上翅は肩部の約 3.1 倍の長さで、明らかに前胸後角幅より広い。上翅間室は密に円形点刻で被われ、アバタ状となる。中脛節はほぼ並行状で、幅の約 3.75 倍の長さに等しく、中附節の長さにほぼ等しい (Fig. 11)。交尾器は強く節片化し、側片先端には鈎状突起を外縁に備える (Fig. 12)。

♀. 体長 6.5–9.0 mm. 体は上翅基部の約 4.1 倍。触角は第 3 節が 4 節とほぼ同長で、4 節より鈍く鋸歯状 (Fig. 5)。前胸背板中央部はやや網目状に密に点刻される。点刻の大きさは雄に比べ大型。前胸は先方に幅広くなり、前縁は深く湾入する。前角は円くなるが、外縁は上反し、7–8 の鋸状の刻みを備える (Fig. 7)。前胸後角は後方に短く突出し、先端やや尖る。上翅は、基部の約 3.0 倍。前脛節は幅の約 3.75 倍で、前方にやや広くなる。前脛節先端部は正常で、外角が強く突出することはない (Fig. 10)。

### 検視標本

1♂, VI. 2011, 奈良県吉野郡天川村弥山 (1,400–

1,600 m), 1♂1♀, 26. VI. 2011, 弥山山頂 (1,800–1,890 m); 2♀♀, 16. VI. 2007, 弥山出合 (1,400 m), いずれも有本久之採集 (鈴木・有本保管)。

分布: 本州 (栃木県, 神奈川県, 山梨県, 静岡県, 福井県, 富山県, 奈良県), 四国 (愛媛県, 徳島県), 九州 (熊本県)。

### 生態的知見

今回発見された個体は、樹高約 3 m で直径約 10 cm のナナカマドの立ち枯れで観察された。樹皮の大部分がはがれ落ち、ほぼツルツルの状態になっていた (Fig. 1)。立ち枯れのおよそ人の腰ほどの高さの部分では、成虫の体とほぼ同じ大きさの丸い穴が開いており、新成虫がその中で頭を出しているものや、幹の表面をうろうろと歩き回っている個体がいくつも観察された。また、同じ立ち枯れの上部の枝からも叩き網で得られた。

本種の幼虫の食樹は、久松 (1985) で明らかにされたシコクシラベ *Abies veitchii* Lindley var. *shikokiana* (Nakai) Kusaka (Pinaceae) と今回判明したナナカマド *Sorbus commixta* Hedl. (Rosaceae) 2 種となったが、針葉樹と広葉樹に穿孔するというのは、たいへん興味深いことである。

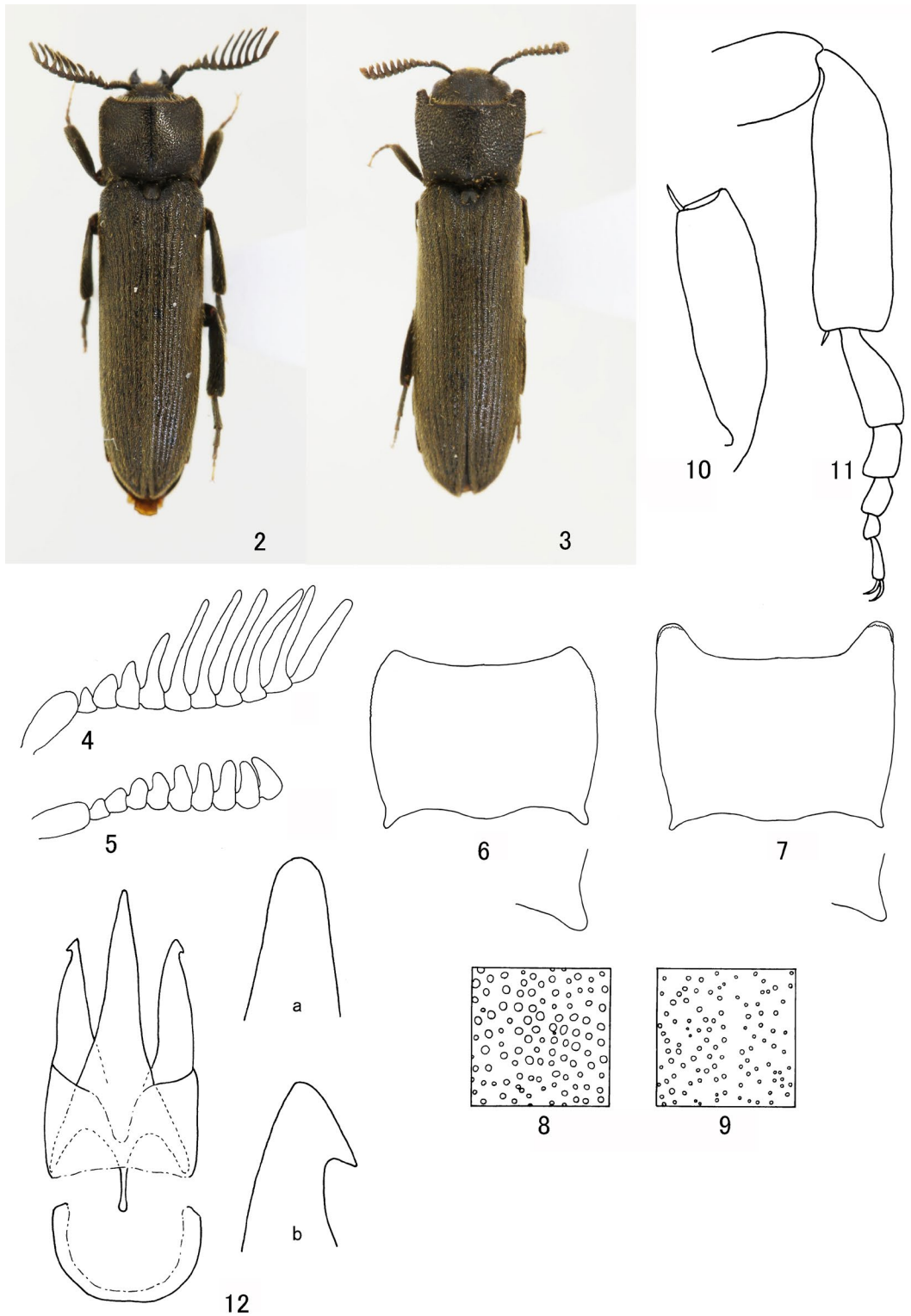
平野 (1999) は、西丹沢の静岡県と山梨県の県境にある三国山山頂で、樹種不明の直径 10 数 cm の立ち枯れで、地上 50 ~ 150 cm の樹肌にいくつかの穴があり、頭を突っ込んでいる個体や交尾をしている個体が観察されたと記している。筆者の一人、鈴木は群馬県日光で樹皮がまだ残っている立ち枯れのほぼ腰の高さの幹を歩き回っている個体を観察しており、同様にその周りにはいくつも脱出坑がみられた。高さは 4 m ぐらい、直径 20 cm ほどの樹であったが、残念ながら樹種の特定はできなかった。

### 近似種との比較

本種は、本州に分布するカクムネに類似するが、以下の特徴を持つことにより、後者から識別することができる。

色彩は、より暗色で触角や脚 (附節を除く) は黒褐色 (カクムネは触角が赤褐色~褐色)。

♂. 触角第 5 節の分枝は 4 節の分枝の約 1.50–1.57 倍 (カクムネは約 2 倍)。前胸背中央部の点刻はやや大きく、(カクムネは点刻が細かい Fig. 9)。正中部の平滑線は狭い (カクムネは平滑線が幅広く明瞭)。交尾器側片先端は外縁部に鈎状突起をもつ (カクムネは先端手前で外縁がくびれ、先端は単純に丸くなる)。



Figs. 2–12. *Melasis* spp. — 2–8, 10–12, *M. shikokensis* Hisamatsu, from Mt. Misen, Nara Prefecture; 9, *M. japonica* Hisamatsu, from Narahara, Gunma Prefecture. 2, habitus, ♂; 3, ditto, ♀; 4, right antenna, ♂; 5, ditto, ♀; 6, pronotum, male; 7, ditto, female; 8–9, punctures on the disc of pronotum, ♂; 10, left fore tibia, ♀; 11, left mid tibia and tarus, ♂; 12, male genitalia, ventral view: a, apex of median lobe; b, apical portion of paramere.

♀. 体はより細長く、上翅基部の約4.1倍(カクムネは約3.7倍)。触角第3節と4節はほぼ同長(カクムネは3>4)。前胸後角は短く後方に伸び、先端はやや尖る(カクムネは後方にやや強く伸び、先端は鋭く尖る)。

### 備考

カクムネコメツキダマシ属 *Melasis* は、雄の触角が櫛歯状となることや、脛節が板状となること、そして、前胸腹面に触角を受け入れる溝がないことから、他の日本のコメツキダマシとは容易に識別することができる。本属は、旧北区からは7種がこれまでに知られているが、Muona (2007) の目録では6種とされ、日本のシコクカクムネは落ちている。これは、外国では入手がむずかしい日本書籍(図鑑)のなかで記載されたことや、文中で新種記載であることがはっきり明記されなかったことにも原因があったと思われる。ちなみに、本種同様に図鑑の中で命名されたニセヒメフトコメツキダマシ *Bioxylus similis* Hisamatsu, 1985 も、同目録から落ちてしまっている。

今回、シコクカクムネの生息が確認された場所では、同時にコクロコメツキダマシ *Euryptychus lewisi* Fleutiaux, 1923 (1ex., 26. VI. 2011, 弥山山頂, 1,800–1,890 m) とホソナガコメツキダマシ *Isorhipis foveata* Hisamatsu, 1955 (5♂1♀, 16. VI. 2007, 弥山出合, 1,400 m, いずれも有本久之の採集) も得られているので資料として記録としておきたい。

### 引用文献

平野幸彦, 1972. カクムネコメツキダマシ箱根に産す。昆虫と自然, 7(8): 35.

- 平野幸彦, 1997. カクムネコメツキダマシ属 (*Melasis*) 2種について。神奈川虫報, (117): 9–12.
- 平野幸彦, 1998. 神奈川県の高ゲフトコメツキ科とコメツキダマシ科。神奈川虫報, (122): 15–21.
- 平野幸彦, 1999. シコクカクムネコメツキダマシの交尾など。神奈川虫報, (127): 40.
- 平野幸彦, 2004. コウチュウ目 Coleoptera. 神奈川県昆虫誌 II: 335–835. 神奈川県昆虫談話会.
- 久松定成, 1985. コメツキダマシ科. 黒澤良彦, 久松定成, 佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑 (III): 42–51 (pls. 8–9). 保育社, 大阪.
- 水野弘造, 1991. 鳳凰山産甲虫類目録. 関西甲虫談話会資料, (2): 1–153.
- 野村孝昭, 1991. シコクカクムネコメツキダマシ富山県に産す。月刊むし, (242): 41.
- Muona, J., 2007. Family Eucnemidae Eschscholtz, 1829. In: Löbl, I. & A. Smetana(eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 4: 81–87. Apollo Books, Stenstrup.
- 斎藤昌弘, 1983. 福井県の甲虫数種の記録. 昆虫と自然, 18(14): 8.
- 斎藤昌弘, 1988. シコクカクムネコメツキダマシの記録. 月刊むし, (206): 40.
- 佐々治寛之・斎藤昌弘・酒井哲弥・井上重紀・陶山治宏, 1998. 甲虫目 COLEOPTERA. 福井県自然環境保全調査研究会昆虫部会編, 福井県昆虫目録 (第2版): 99–311. 福井県.
- 鈴木 互, 1987. 本州日光におけるシコクカクムネコメツキダマシの記録. 甲虫ニュース, (78): 4.
- 鈴木 互・渡辺昭彦, 2008. 九州で採集されたシコクカクムネコメツキダマシ. 甲虫ニュース, (163): 14.
- 高橋泰美, 1987. カクムネコメツキダマシの新産地. 月刊むし, (192): 43.
- 高橋泰美, 1988. 読者のお便り・訂正など. 月刊むし, (207): 42B.
- 高橋泰美, 1992. 栃木県と岩手県のカクムネコメツキダマシ属の記録について. 月刊むし, (253): 36.

(2013年3月24日受領, 2013年6月11日受理)

### 昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒142-0051  
東京都品川区平塚2丁目5番8号  
郵便振替 00130-4-21129  
電話 (03) 5858-6401 (ムシは一番)  
FAX (03) 3784-6464

(カタログ贈呈) (株) 志賀昆虫普及社

### ◇学会の発行物・バックナンバーの販売委託先◇

昆虫文献 六本脚

〒102-0075 東京都千代田区三番町 24-3

三番町 MY ビル 3階

TEL: 03-6825-1164

FAX: 03-5213-1600

E-mail: roppon-ashi@kawamo.co.jp

URL: http://kawamo.co.jp/roppon-ashi/